

(概要版)

音声に慣れ親しみ、意欲的に表現しようとする 外国語活動の工夫

一段階ごとの「発話アプローチ」を取り入れた活動を繰り返す授業づくりを通して一

長期研修員 大澤 貴子

主題設定の理由

小学校外国語活動の目標

学習指導要領

外国語を通じて

- ①言語や文化について体験的に理解を深める。
- ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

コミュニケーション能力の素地を養う

児童の実態

自分を表現するのは恥ずかしい。



長い英語を覚えて伝えることは苦手。

自分から英語で話したり、発表するのはちょっと・・・。

学校教育の指針

群馬県でも・・・

コミュニケーションを図る楽しさが味わえる活動を設定する

すると

達成感・自信の積み重ね

教師の願い



自分から進んで英語を使おうとしてほしいな。

そこで

音声に慣れ親しみ、意欲的に表現するためには、
母国語の言語習得と同じように、
自然に発話を促す方法が必要

それが

発話アプローチ

徐々に音声に慣れ親しませ、自然な発話を促せるように **3つの段階**〈インプット段階〉・〈インテイク段階〉・〈アウトプット段階〉に構成した音声項目の配列

発話アプローチ (インプット段階)

理解しやすい多くの音声に触れ、自分の中に音声を入れる

ねらい	音声項目	活動のねらい	具体的な活動例
発話への意識を高める	感謝や賞賛を聞いてわかる	雰囲気をつくる活動	英語での挨拶
	音楽に合わせて体を動かし、歌う 体を動かして聞く	単語や表現を導入する活動	手遊び歌 絵本読み聞かせ 歌、チャンツ
音声に興味をもつ	チャンツに合わせて体を動かし言う 教師の指示を聞いて動く		チャンツ タッチゲーム
	視覚を働かせて聞く		DVD、紙芝居

児童の実態に応じ、必要な音声項目を選ぶ

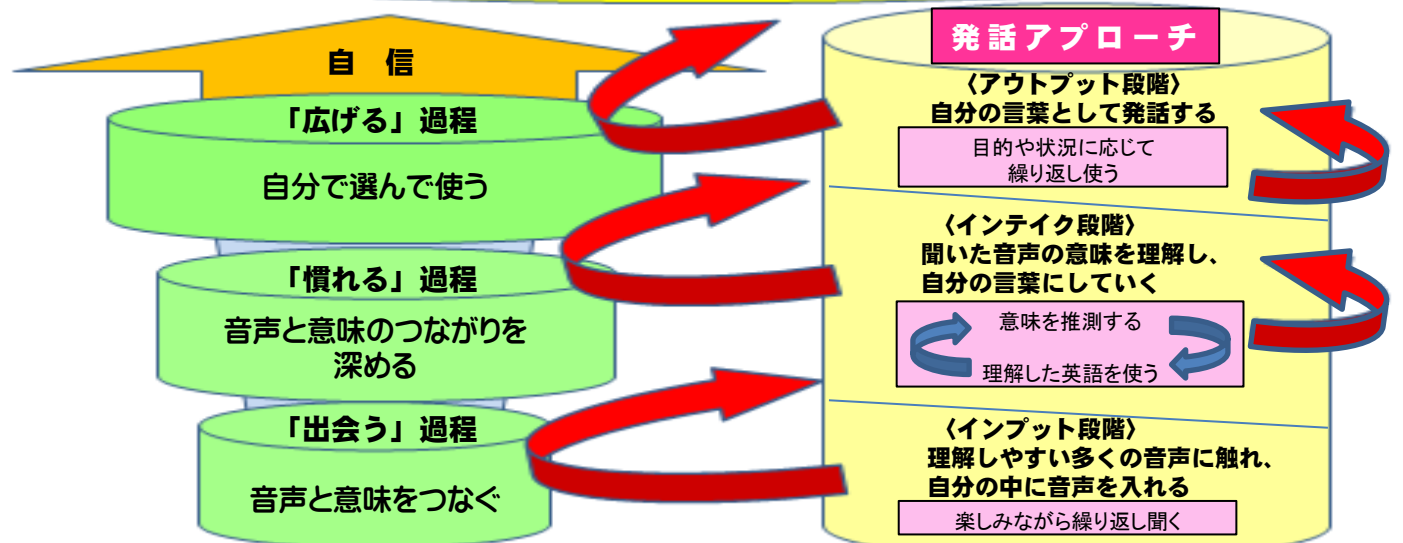
計画的に

活動に取り入れる

繰り返す

研究構想図

音声に慣れ親しみ、
意欲的に表現しようとする児童



児童の実態：覚えることへの抵抗感、自己表現への恥ずかしさ・戸惑い、受け身的な発話

授業実践 「絵本を作ってクイズを出そう」全5時間 (関連：英語ノート2 Lesson8)

〈インプット段階〉 理解しやすい多くの音声に触れ、自分の中に音声を入れる

出会う (楽しみながら繰り返し聞く)

ねらい : 音声の特徴に気付く
音声項目 : 本語との音声の違いに気付く
活動 : 英語ノートの物語を聞く



ねらい : 音声の特徴に気付く
音声項目 : リズムやアクセントに注意する
活動 : 絵本の読み聞かせを聞く



ねらい : 音声と意味をつなぎ合わせる
聞いたイメージをもつ
音声項目 : 音声とイメージを対比しながら聞く
聞かれたことに反応して1、2語で答える
活動 : 教師の絵本 I の読み聞かせを聞く



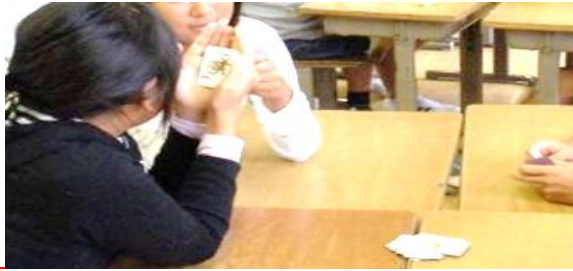
ねらい : 聞いた音声のイメージをもつ
音声の意味を推測する
音声と意味をつなぎ合わせる
音声項目 : 具体物を手がかりにしてイメージをもつて聞く
意味を推測して真似して言う
聞かれたことに反応して1、2語で答える
活動 : ミッシングゲーム



〈インテイク段階〉 聞いた音声の意味を理解し、自分の言葉にしてい

慣れる (意味を推測し、理解した英語を繰り返し使う)

ねらい : 意味の推測を繰り返し、理解する
 音声項目 : 具体物を手がかりにして意味を理解して簡単な英語で答える
 活動 : **Go Fish ゲーム**



ねらい : 意味の推測を繰り返し、理解を深める
 音声項目 : 聞いた音声を理解し、反応して動く
 活動 : **キーワードゲーム**



ねらい : 理解した英語を使いながら自分の言葉にしようとする
 音声項目 : 聞いた英語を理解し、真似して人に伝える
 活動 : **伝言ゲーム**



ねらい : 理解した英語を使いながら自分の言葉にしようとする
 音声項目 : 必要なものを得るために、理解した英語を使う。理解した単語や簡単な文を聞いて、考え伝える
 活動 : **作ったカードでクイズを出す**



〈アウトプット段階〉 英語を自分の言葉にする

広げる (目的や状況に応じて繰り返し使う)

ねらい : 場面や相手に応じ、自分の分かる英語を選んで表現する
 音声項目 : 分かる単語や簡単な文を聞いて、考え伝える
 分かっている英語を組み合わせる
 活動 : **絵本づくりを考える**



ねらい : 場面や相手に応じ、自分の分かる英語を選んで表現する
 音声項目 : 場面や相手に応じ、自分の言いたいことを考え、言葉を選んで伝える
 分かっている英語を組み合わせる
 活動 : **クイズを出し合う**



ねらい : 場面や相手に応じ、自分の分かる英語を選んで表現する
 音声項目 : 場面や相手に応じ、自分の言いたいことを考え、言葉を選んで伝える
 場面や相手に応じ、自分の知っていることを人に伝え、話を聞いて自分も分かる英語で応じる
 活動 : **自分が作成した絵本を使って2年生にクイズを出す**



段階ごとの「発話アプローチ」を取り入れた後の児童の様子

＜インプット段階＞

聞いた英語の意味がイメージできましたか

□できた □まあまあできた □あまり □できない



イメージできた96%

音声やリズムに馴染み、徐々に音声と意味をつなぐことができた。

＜インテイク段階＞

インテイク段階後の活動をしてよかったことは何ですか

いろいろな表現を知った **88%**

何を言っているのかわかるようになった **96%**

自分なりに理解した英語を使う活動を繰り返したことで、英語を自分の言葉にすることができた。

＜アウトプット段階＞

アウトプット段階後の活動をしてよかったことは何ですか

いろいろな表現で言えた **96%**

自然に英語が言えた **92%**

自信をもって言えた **86%**

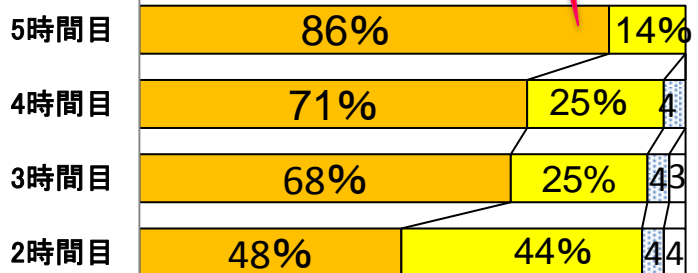
自分の言葉になった様々な英語から状況に合った表現を自然に選んで発話していくことにより、音声に慣れ親しみ、英語を使っていこうとする意欲も高まった。

＜時間ごとの変容＞

100%

楽しみながら英語を使おうとしましたか

■した ■まあまあ □あまり □しない (%)



研究のまとめ

成果

音声に慣れ親しみ、意欲的に表現するようになった。

- 段階ごとの音声項目を活動に取り入れながら授業を進めたことで、徐々に音声に慣れ親しみ、英語を発話することへの自信が高まり、意欲的に表現するようになった。
- 「発話アプローチ」のねらいに沿った音声項目を取り入れた活動を繰り返した授業づくりをしたことで、活動の中で意欲的に表現しようとするようになった。

課題

- 音声項目のねらいに沿った活動をするときには、児童の実態に合わせた音声項目を取り入れて、授業を進める必要がある。
- 「発話アプローチ」を取り入れた活動を効果的に行うためには、指導者と児童、児童同士のかかわり合いも取り入れた活動を繰り返す必要がある。